～ようこそ ようこそ 和紙の里へ～

広報 ひおき

日置地区まちづくり協議会・日置地区公民館

令和８年度

11月号

令和8年10月23日

発行　日置地区公民館
住所　〒689－0514　鳥取市青谷町山根218
電話　0857-86-0836
ファックス　0857-86-0837
メール　cc-hioki@it.city.tottori.tottori.jp

～行事のご案内～

【健康づくり出前教室】

参加無料

【日　時】１１月２日(月)　１０:００～１１:３０
【場　所】早牛公民館
【指　導】青谷町社会福祉協議会職員
【内　容】e - スポーツ体験（ボウリング、太鼓ゲーム）

【日　時】１１月１１日（水）１０:００～１１:３０
【場　所】山根公民館
【講　師】佐々木ターミーさん
【内　容】軽い健康体操
【持ち物】タオル　　【申込締切】１１月９日（月）

【ひおき健康マージャン】

参加無料

【日　時】１１月５日(木)　９:００～１２:００
【場　所】日置地区公民館多目的室
【指　導】舟木 真佐人さん
【申込締切】１１月２日（月）

【秋のお出かけバスツアー】
～山陰海岸沿いを満喫！～

【日　時】１１月２０日(金)　９時出発～１５時帰着予定
【行　先】鳥取砂丘ビジターセンター～砂の美術館～
　　あじろカフェなだばた～道の駅きなんせ岩美
【持ち物】飲み物　　※歩きやすく体温調整しやすい服装
【参加費】２，５００円（昼食代、施設入館料等込み）
【募集人数】２０名
【申込締切】１１月６日（金）

【健康づくりグラウンド・ゴルフ大会】

参加無料

【日　時】１１月２９日(日)　　９:１０～１１:３０頃
【場　所】あおや和紙工房GG場（8:50～受付）　※雨天中止
【持ち物】飲み物、GG用スティック、ボール、マーカー
【表　彰】優勝、準優勝、第３位、５とび賞、　※貸出あり
　　ホールインワン賞、参加賞、他いろいろな賞あり
【申込締切】１１月１９日（木）　※個人戦です

※詳しくはそれぞれチラシをご覧ください

ひおき収穫祭

【日時】11月15日(日) 10:00~12:30
【場所】あおや和紙工房前広場
※雨天時：日置体育館

【ステージ】
- ❖日置オカリナサークル
- ❖カマタニヤマナ
- ❖城北太鼓

【集落屋台】
- ❖から揚げ
- ❖ポテトフライ
- ❖やきそば
- ❖焼き芋
- ❖PET飲料
- ❖ビール

【出店】
- ❖かどっこ
- ❖のぞみハウス

【ひおき市】
- ❖地元で獲れた新鮮野菜
- ❖今が旬の果物
- ❖加工品
  - ・まめな会(こんにゃく、おこわ)
  - ・河原お菓子サークル(三色おはぎ)
  - ・カフェべりぃ(メンチカツバーガー)

等・・・

【大学生企画屋台】
- ❖自家製ジンジャーエール
- ❖ホットコーヒー
- ❖フランクフルト（ホットドック）
- ❖ストラックアウト
- ❖ミニゲーム(イライラ棒等)

★杵つき餅のふるまいがあります。
★ステージ終了後、お楽しみ抽選会があります。
★送迎バスを運行します。ぜひご利用ください。

※詳しくは別チラシをご覧ください！

わしの子教室行事予定

【振替休日を公民館で過ごそう！】

【日　時】１１月１６日(月)　９:００～１５:００
【内　容】・大学生と体育館で遊ぼう！
　　・昼食作り（焼きそば）
　　・干支(未)のポンポンチャーム作り
【持ち物】体育館シューズ、飲み物、タオル、エプロン、三角巾、マスク
【参加費】１００円

【わしの子楽団】

【日　時】１１月２８日(土)　９:００～１０:３０
【指　導】山田　麻里子　先生
【内　容】合奏曲、ハンドベルの練習

※詳しくはチラシ、わしの子教室行事予定表をご覧ください

11月の行事予定表

日付	曜日	行 事 名	サークル他
1	日	桜の木伐採＆植樹	
2	月	健康づくり出前教室	
3	火	（文化の日）こばしまウォーキング	オカリナサークル
4	水	みそ分け	
5	木	ひおき健康マージャン	
6	金		
7	土		
8	日		
9	月		
10	火	ひおき収穫祭実行委員会	配食サービス オカリナサークル
11	水	健康づくり出前教室	
12	木		
13	金		
14	土		
15	日	ひおき収穫祭	
16	月	振替休日を公民館で過ごそう	
17	火		
18	水		
19	木		
20	金	秋のお出かけバスツアー	そばサークル
21	土		
22	日		鳥取市議会議員選挙
23	月	勤労感謝の日	
24	火		配食サービス オカリナサークル
25	水	広報ひおき発行	はなちゃんのあみもの教室
26	木	まちづくり協議会役員会	
27	金		
28	土	わしの子楽団	はねそサークル
29	日	健康づくりGG大会	
30	月		

日置地区運動会

9月27日、スローガン『笑って、走って、元気いっぱい日置の日』のもと、運動会が盛大に開催されました。当日は子どもから大人まで多くの地区民が集まり、久しぶりの再会に笑顔で会話を弾ませる和やかな姿が見られました。集落対抗競技では勝利を目指して懸命に競い合い、応援にも熱が入りました。どの競技も「楽しむこと」をモットーに、皆が元気に参加し笑顔が溢れる一日となりました。体育会をはじめ役員の皆様の多大なるご尽力により、今年も素晴らしい運動会になりました。ありがとうございました。

『ひおき健康マージャン』

１０月１日（木）、健康マージャンを２卓を囲んで開催しました。「自分に厳しく、人に優しく」のマナーのもと、初心者も安心して楽しめます。全３ゲームを行い、ゲーム間の休憩中にはおしゃべりを通じて交流が深まりました。参加者の間では「今度家に集まってまたマージャンをしよう」と話が弾むなど盛り上がっていました。

やってみよう！でー

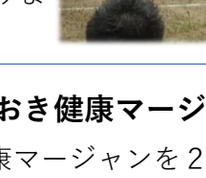
『ひおきのいいとこ見っけ！』

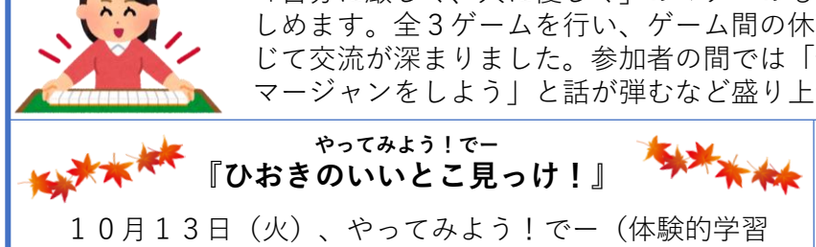
１０月１３日（火）、やってみよう！でー（体験的学習活動等休業日）に子どもたちに日置のよさを知ってもらいたいと、実施しました。内容はさつまいも掘り・さつまいもクッキング・柿と落花生の収穫体験です。

わしの子農園で育ったさつまいもを、植える時にもお世話になった小畑の前田靖憲さんに教わりながら次々と掘り上げました。子どもたちは大きな芋を見つけては喜々としていました。

収穫したさつまいもを使った蒸しパン作りでは、固いさつまいもを切るのが大変でしたが、美味しくできました。

午後からは河原の長谷川具章さん・しをりさんご夫妻のご厚意で、柿と落花生の収穫体験をしました。迷子になりそうなほど広い柿農園で、たくさん実った大きな柿にびっくり！お話を聞きながら慎重にハサミを使って枝から切り離し軸を整えたりしました。輝太郎をはじめ、リンゴほどの大きさの太郎丸など５種類の柿の味比べをし、美味しい！とみんな笑顔に。子どもたちは“渋い”がよくわからないということで、渋柿を少しかじってみると表情が一変。心に刻まれた１日となったことでしょう。





『わしの子楽団』

現在、１０名の団員が山田麻理子先生の指導の元、月１回午前９時から１０時３０分まで、時間いっぱい練習に励んでいます。１０月１７日(土)は、木琴、鉄琴やキーボードなどで、

『夏まつり』
『好きすぎて滅』
『もみじ』
『小さな世界』

を練習しました。

『干支の押絵づくり』

１０月１９日（月）、９名の参加者が干支の押絵づくりに取り組みました。

これまでほぼ毎年開いてきた教室で、１２支揃っているけど年女だからまた作りたいといって参加された方、初めてだけど作ってみたいと参加された方、様々ですがワイワイ賑やかに押絵作りを楽しみました。

最初に「説明書をよ～く読んで、順番に書いてある通りに作っていけば誰でも作れますからね」とは言ったのですが、説明書は放置で先走り、作り方を間違える方続出！全員完成したのは予定時間を１時間超過した１７時前でした。でも、苦労して出来上がった作品を見て「良い年が迎えられそう」と笑顔がこぼれていました。

『小地域懇談会』

日　時：令和８年１０月１５日（木）１９時～２０時３０分
テーマ：「女性の視点で考える避難所運営」
講　師：鳥取市防災指導員　安達　典子さん
女性分団所属の消防団員と防災指導員（鳥取市６１名中女性３名）兼務。家族ぐるみで地域での救命講習や防災知識の普及啓発、避難所開設体験の実施など地域の生命と財産を守る取り組みや防災意識の向上に尽力。

日置地区小地域懇談会に参加して

人権教育協力員　中宇地　康子

今回、阪神淡路大震災、東日本大震災、能登半島地震の事例や防災対策など幅広く深い内容でしたが、特に女性に特化した課題と平時からの地域の備えについて報告します。

①　発災時や避難所生活では女性特有の影響が甚大

阪神淡路大震災において高齢女性の家屋状況や子育て中の女性が子どもや家族を守ろうとする行動から建物倒壊による死者が男性の１．４倍も多かったという報告がありました。

また、東日本大震災では、被災後の避難所生活においても自分のことは二の次で家族の世話や炊き出しなどによる心身の負担感や不安、ストレスなどにより睡眠障害が男性に比し、極めて多かったということでした。

②　防災対策や「避難所運営」に「女性の視点」が必要

その理由として、まず、災害時には性差により必要となる支援や困り感が異なるためであり、東日本大震災では女性や子育て世帯のニーズに対応できなかったという課題が残りました。

そして、災害時には平時の社会課題が顕在化し、「男性は仕事」「女性は家庭」という性別役割分担意識が表面化し、様々な問題に関連してくるそうです。

現状として、避難所運営の中心を男性が担うことが多く、意思決定の場に女性が参画できず、女性ならではの困り事や子育て世帯のニーズなどが反映されなかったり、女性が食事や片づけなどの役割に偏るなど平時の現状が避難所運営の問題として表面化してきます。

反対に女性の視点を活かし女性が避難所運営に参画することにより、子どもや高齢者、障がいのある方など多様な立場の人たちの意見やニーズを尊重した誰もが安心して過ごせる避難所運営につながるそうです。

③　平時から住民どうしが助け合う「共助」の地域づくりが重要

災害時には「自助・共助・公助」の三つの力が連携することで、地域の防災力は大きく高まるということでした。これらの力は一朝一夕にはうまれず、平時から一人ひとりが災害に備える「自助」。そして、住民どうしが助け合う「共助」が重要で、それらの力が避難所運営で発揮できるということです。共助の取り組みについては、能登半島地震での女性消防団員の事例で紹介されました。

「備えあれば憂いなし」という諺のように、災害に強い地域づくりは平時からの地域づくり、「共助」を具現化することだと改めて認識しました。

昨年実施した「みんなが住みよい地域づくりアンケート」での「１０年後の日置のあるべき姿」の回答で「人とのふれあいやつながりが豊かで、お互い支えあえる地域」４７．４％とあり、このような地域づくりをめざし、活動していくことにより「共助」につながっていくのではないでしょうか。

男女共同参画の地域づくりを実現し、女性も子どもも高齢者も障がいのある人も地域の大切な構成員として尊重され、地域づくりの場に参画し、それぞれの意見やニーズが反映され、一人ひとりの力を結集することで、お互い助け合える安心安全な暮らしやすい地域づくりになるのではないかと今回の講演により改めて再認識した次第です。